

## 薬剤部 DI ニュース

## ★便秘薬の分類と、効果があらわれるまでの時間を教えてください★

## 1、当院採用の便秘薬の主なものとしては、次の3つがあげられます。

- ①浸透圧性下剤 : 腸管内腔液の浸透圧を高めることにより、腸管内腔への水分の移行を促し、便の水分含量を増加させる作用を持った薬剤で、塩類下剤と糖類下剤の2つがあります。
- ②大腸刺激性下剤 : 大腸の運動を亢進させるとともに、水と電解質の分泌を増加させる作用を持った薬剤です。
- ③浣腸・坐剤 : 直腸粘膜の興奮性が低下すると排便運動は起こりにくくなり、内服薬に対する反応性も低くなります。  
このような場合は直腸に直接機械的、または化学的刺激を与えるために浣腸剤や坐剤を適用します。

## 2、作用発現時間の目安などについてまとめました。

分類		薬品名	作用発現時間	注意事項など
浸透圧性下剤	塩類下剤	酸化マグネシウム	8～10時間	腎障害時 (Mgの排泄遅延などに注意)
		マグコロールP	2～6時間	
	糖類下剤	ラクツロースシラップ	-	
		カロリールゼリー	-	
大腸刺激性下剤		プルゼニド	8～10時間	電解質変動の注意
		アローゼン	8～10時間	尿の色調変化
		ラキソベロン液	7～12時間	15滴＝1ml
消化管運動調整薬		ガナトン	0.5～1時間	抗コリン作用のある 薬剤との併用
		ガスモチン	-	
その他		大建中湯	-	緩下剤の適応なし
		新レシカルボン坐剤	20分～2時間	
		テレミンソフト坐剤	5～60分	
		グリセリン浣腸	ただちに(2～3分)	高齢者には注意

(薬剂部 荻尾)